

日本キリスト改革派教会 創立 80 周年記念信徒大会

プログラム

【5日・火】

- 13:00～14:20 開会礼拝、全体写真
14:40～15:50 講演Ⅰ「ウ信仰規準による伝道と教会形成」
講演者 袴田康裕教師
16:10～17:30 感謝会・中会のことば

キッズプログラム
14:40
}
17:30

【6日・水】

- 9:30～11:00 創立80周年記念宣言
「神の国を今ここに」
講演Ⅱ「神の国の夢と幻を今ここに見る」
講演者 吉岡契典教師
11:20～12:40 感謝会・中会のことば
12:40～13:00 閉会祈禱会

キッズプログラム
9:30
}
12:40

80周年記念信徒大会特別委員会

- 坂井孝宏（委員長、総合・広報部、進行）
大宮季三（感謝会・キッズプログラム）
柏木貴志（総合・広報部、しおり）
常石召一（現地・会場部、受付）
古澤純人（現地・会場部、統括）
三輪 誠（事業会計）
川島伊作（宿泊・交通部）
芝 直基（総合・広報部、救護班）
速水清隆（現地・会場部、渉外）

目次

はじめに	3
会場周辺地図	4
キャンパスマップ	6
アトリウムコイノス座席図	8
施設の案内 注意事項	10
開会礼拝	14
講演 I	19
宣言朗読・講演 II	22
中会のことば	26
閉会祈禱会	53
参加者名簿	56
CRC 挨拶文	65
付録	
四国学院大学と神戸改革派神学校	71
四国学院大学アラカルト・ラリー	74
あの日の四国学院大学	84
会場で出会った人たちとの記念に	87

はじめに

日本キリスト改革派教会創立80周年記念信徒大会を通して、私たちの主のご栄光があらわされますように。

見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び

詩編 133: 1

この日のために、800人を数える全国各地の兄弟姉妹が遠くから近くから集まって、共に賛美の声をあげ、悔い改めと感謝を表すことへと導かれました。この格別な恵みの導きに対して、心から主に感謝いたします。

今回、四国学院大学のキャンパスをご厚意により使用させていただくことができました。後述の「施設の案内」等の注意をお読みください。その他、プログラムの円滑な進行のためにご協力お願いいたします。

実行委員会を始めスタッフ一同、この日のために精一杯心を配り、集ってくださった皆さんに喜んでいただけるように準備をしてきました。しかしながら欠け多い者ですから、ご不便をおかけすることや、ご不満を与えてしまうことが多々あるかもしれません。どうかご容赦ください。お気づきの事がございましたら、お近くのスタッフにお伝えください。

みなで祈りを合わせて、感謝と恵みに満ちた記念信徒大会をともに作り上げていきましょう。

会場周辺地図

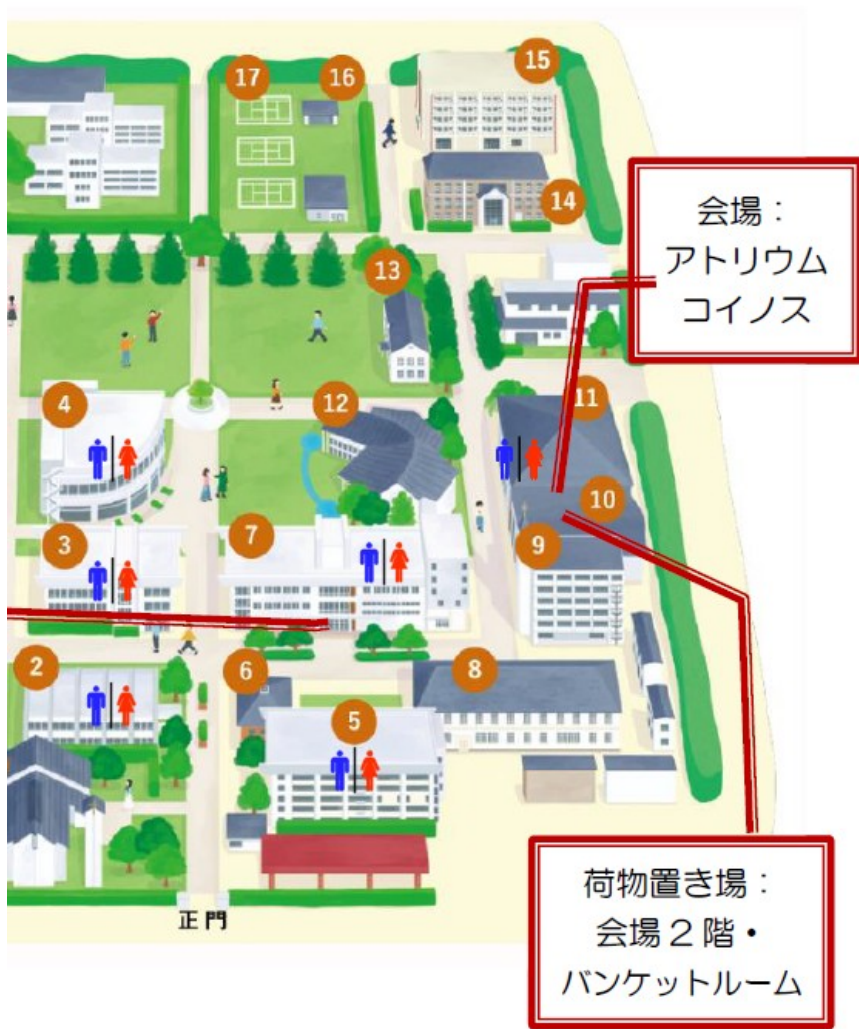




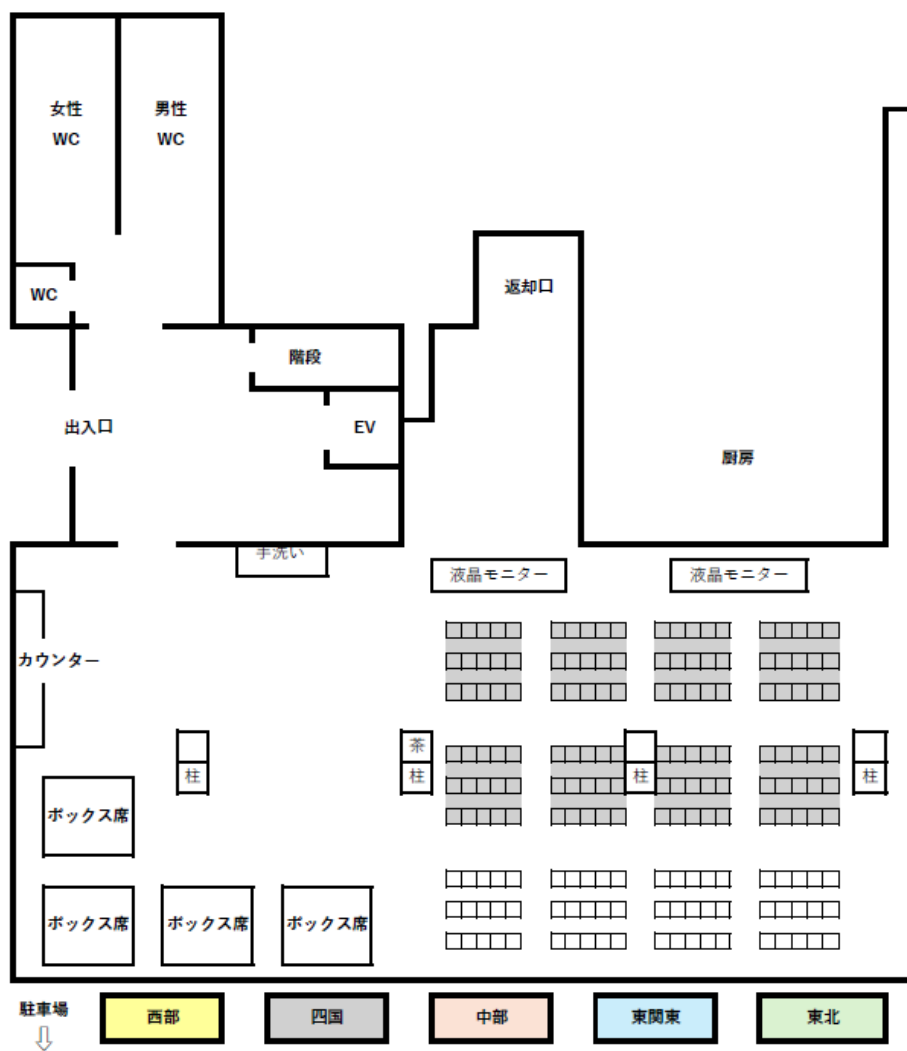
キャンパスマップ

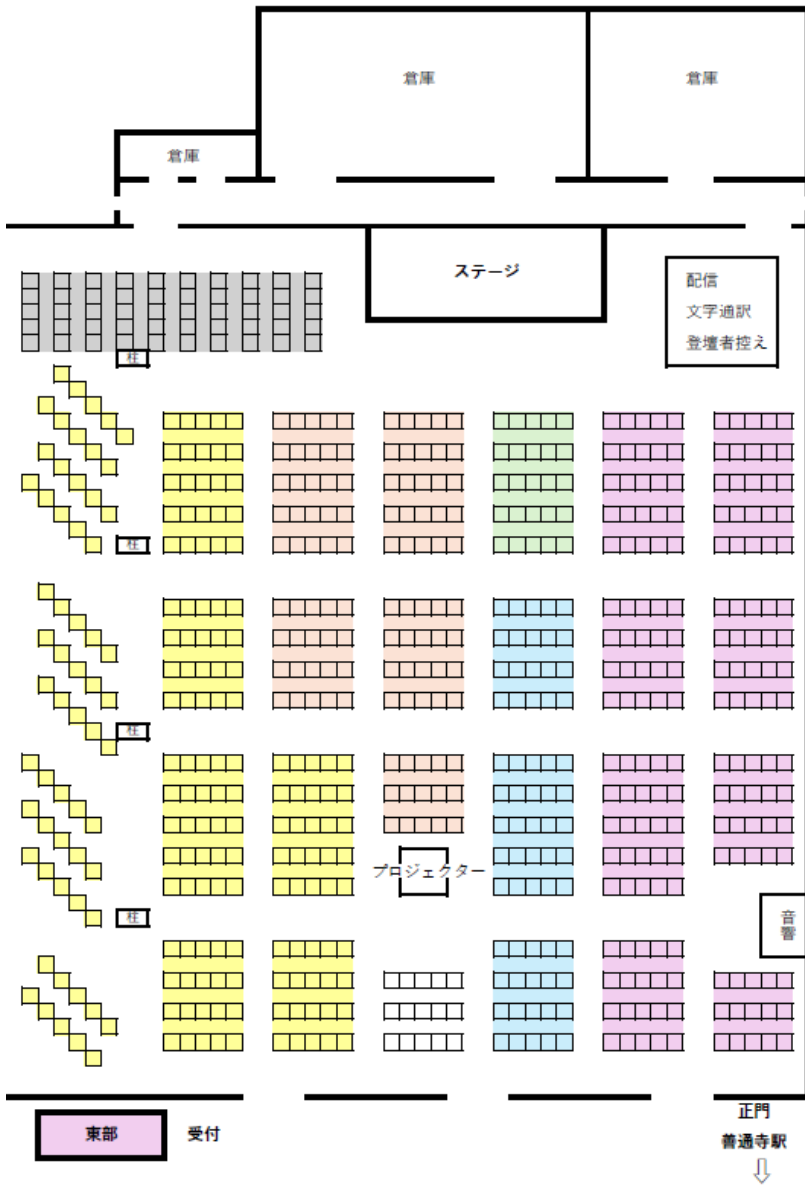


- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 清泉礼拝堂 | 12 エクテス館(図書館) |
| 2 栄光館(4号館) | 13 ホワイトハウス |
| 3 友愛館(5号館) | 14 ロゴス館(同窓会館) |
| 4 光風館(7号館) | 15 マグノリア学寮 |
| 5 晴信館(6号館) | 16 弓道・アーチェリー場 |
| 6 敬愛館(本部棟) | 17 テニスコート |
| 7 仰光館(3号館) | 18 ノース館(8号館) |
| 8 2号館 ※文化庁登録建造物 | 19 健生館(保健館) |
| 9 第2共生館(学生会館) | 20 第1新生館(体育館) |
| 10 アトリウム コイノス | 21 第3共生館(学生会館) |
| 11 カフェテリア コイノス | 22 立体駐車場 |



アトリウムコイノス座席図





施設の案内 | 注意事項

アトリウムコイノス(キャンパスマップ⑩)という施設を会場として使用します。
開会礼拝、講演、感謝会、閉会式はすべてこの場所で行います。

飲食は可能ですがお弁当等の食事は下記の食事スペースでお願いします。
お茶サーバーはご利用いただけます。使用後のコップは返却口へお願いします。
しかし、ジュース類のサーバーは利用不可です。

キッズプログラムは、アトリウムコイノス2階の多目的ルームおよび体育館や屋外で行われます。

使用が許可されていない施設や教室へは立ち入らないでください。

1. 受付 | キャンパスマップ⑩ 会場入口前

- ・受付は中会毎になっています。それぞれのお名前をご確認ください。
- ・受付で記念トートバッグをお渡しします。しおり、聖餐セットが入っています。
- ・全参加者の名札を用意しています。弁当を注文された方は食券をご確認ください。
- ・雨天時は屋内に設置します。傘は傘袋を用意しますので各自でお持ちください。

2. 駐車場 | キャンパスマップ⑫

- ・駐車場の無料カード利用については、記念信徒大会のなかでアナウンスをいたしますので、その案内に従ってください。

3. 荷物置き場 | キャンパスマップ⑪ バンケットルーム

- ・スーツケースなどの大きな荷物は、会場への持ち込みをご遠慮ください。
- ・会場2階に荷物置きスペースを用意しています。お預けの際、荷札をつけ、取り違えのないようご注意ください。スタッフは常駐しません。
- ・貴重品はご自身で管理してください。



4. トイレ

- ・会場内のトイレは混み合うことが予想されます。周辺建物のトイレの利用にご協力ください。(キャンパスマップ②、③、④、⑤、⑦)

5. 座席

- ・会場のキャパシティーは限界ギリギリであります。座席にはひとつも余裕がありません。皆様には非常に窮屈な思いをさせてしまい、本当に心苦しいのですが、どうかご協力ください。
- ・座席は中会別に区分しています。(8・9頁参照)事前にご案内した配置図とは若干異なる部分もありますが、空席を作らないようにお願いします。
- ・椅子も決して快適ではなく、大学で用いられているパイプ椅子などを利用させていただきます。受付で貸し出し用のクッションを用意しています。期間中は椅子に置いたままで構いません。終了後に受付へご返却ください。
- ・一部の席は奉仕者のために確保しています。ご了承ください。

6. captiOnline について

・耳の聞こえづらい方、聴覚情報だけでなく文字情報があることで理解が進む方などを想定した captiOnline による文字通訳を行います。ステージ右側のスクリーンに音声と同時に文字情報を表示するほか、→→の QR コードを読み込むことでお手持ちのスマートフォンやタブレットでも見ることができます。ぜひ試してみてください。



7. アトリウムコイノス WiFi について

・SSID : sguWLAN Pass : sgu-WLAN

8. 食事スペース | キャンパスマップ⑦ 311 教室

- ・お弁当を注文された方は、311 教室でお渡しします。名札に入っている食券と引き換えてください。その場で飲食することもできます。
- ・311 教室は、お食事を各自で用意された方も自由にお使いください。

9. 聖餐式

- ・開会礼拝で聖餐式が執り行われます。パンと杯は記念トートバッグに入っています。司式者の案内に従ってください。
- ・個包装のゴミは各自でお持ち帰りください。



10. 善通寺駅までの送迎

- ・両日ともプログラム終了後に善通寺駅まで、車でお送りすることができます。
- ・乗車場所は、大学正門内です。
- ・台数に限りがありますので、高齢の方などを優先に、譲り合いにご協力ください。

11. 救護スペース

- ・体調不良の場合に備えて、ボックス席に救護班として医療関係者が待機してくださっています。
- ・救護班
芝直基(責)、和泉淳子、今中与主安、菊地信子、古口契児、小林朝光、芝恵二、中田宣人、中田牧人

12. 写真撮影と SNS 等の投稿について

- ・公式記録の撮影
本大会の公式記録写真は、以下の奉仕者により撮影されます。
相場郁朗、梶野文輔、松崎至道
- ・SNS 等の投稿について
皆さまが撮影された画像を、インターネットや SNS 等へ掲載されるときには、個人の肖像権およびプライバシーに十分留意し、適切な取り扱いを心がけてくださいますようお願い申し上げます。

開会礼拝

司式：久保 浩文 教師

説教：吉田 隆 教師

奏楽：柏木 知恵 姉妹

前 奏

礼拝への招き

賛 美 ジュネーヴ詩編歌98（1, 3, 5）

祈 禱

聖 書 マタイによる福音書28章16-20節

説 教 「世界の希望」

祈 禱

賛 美 讚美歌282（みさかえは主にあれ）

聖 餐 式 司式：川杉 安美 教師

献 金

献金感謝 芝 直基 長老

主の祈り

祝 禱

聖書 マタイによる福音書 28章 16-20節

¹⁶ さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。¹⁷ そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。¹⁸ イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。¹⁹ だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、²⁰ あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

主の祈り

天にまします 我らの父よ

願わくは 御名をあげさせたまえ

御国をきたらせたまえ

みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を きょうも与えたまえ

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく 我らの罪をもゆるしたまえ

我らをこころみにあわせず 悪より救いいただいたまえ

ジュネーヴ詩編歌 98 (1, 3, 5)

1.あ
2.主
3.全

たは地
らみよ
しい主
きつに
うく向
たしか
もみい
てとて

主まこ
をこえ
たとを
たと上
えをげ
まもう
つちた
れ。て。え。

主イよ
はスろ
くらこ
すエび
シルか
きのつ
わいう
ざえた
ををえ

なかた
しえか
遂りき
げみこ
たたえ
ままは
ええな
り。り。て。

主地こ
はのと
す果を
くても
いまて
のでた
わすた
ざべえ
をてよ、

ちひこ
かと
らびと
もとう
てはた
果見を
たたも
し。り。て

せわ
ラツ
かがバ
いかと
のみつ
くのの
にすぶ
ぐくえ
にいも
にのて

かおお
主
ちいを
をなた
告るた
げみえ
たわま
もざつ
う。を。れ。

1

あたら 新しき歌もて
 しゅ 主をたたえまつれ。
 しゅ 主は奇すしき業を
 な 成し遂げたまえり。
 主は救いの業（わざ）を
 ちから 力もて果たし、
 せかい 世界の国々に
 かち 勝利を告げたもう。

2

しゅ 主はみいつくしみと
 まこととをもちて、
 イスラエルの家を
 かえり 顧みたまえり。
 ち 地の果てまですべて
 ひとびと 人々は見たり、
 わが神の救いの
 おお 大いなる御業を。

3

ぜんち 全地よ主に向かいて
 こえ 声を上げ歌え。
 よろこ 喜びかつ歌え
 たか 高き声放て。
 こと 琴をもてたたえよ、
 こと 琴と歌をもて
 ラッパと角笛もて
 しゅ 主をたたえまつれ。

4

うみ 海に満（み）つるものは
 みな みな鳴（な）りとどろけ。
 ち 地とそこに住むもの
 どよめき 歌えよ。
 おおみず 大水も手を打ち、
 もろもろの山は
 とも 共に主のみ前に
 よろこ 喜び歌えよ。

5

しゅ 主こそまことの王、
 しゅ 主を迎えまつれ。
 しゅ 主、地に来たりたもう。
 しゅ 主をたたえまつれ。
 しゅ 主はすべての国と
 もろもろの民を
 こうへい 公平と義をもちて
 さば 裁きをなしたまわん。

K6 Y&I, 1935

REFORMATION
Isao Kozumi, 1953

♩.69 み さ か え は 主 に あ れ め ぐ み の み か み は し
 の か げ に さ た る み た み を か え り み み
 す く い を も た ら し み と の を き よ む る か
 が や け る つ か い を つ か わ し た ま え り

♩ ♪ 3-21,22

(宗教改革記念日)

1

み榮えは主にあれ、めぐみの御神は
 死の蔭に坐したる み民をかえりみ、
 み救いをもたらし みとのをきよむる
 かがやける使者を つかわしたまえり。

2

み榮えは主にあれ、つみびとをゆるす
 限りなきめぐみは あらたにしめされ、
 律法より解かれし 自由のよろこび、
 主に頼るころに ふたたびあふれぬ。

3

み榮えは主にあれ、権威のよとなる
 さかえある聖書は われらの手にあり、
 世の智者よ、退け、聖なるみたまは
 その旨をしたしく ときあかしたもう。

4

み榮えは主にあれ、とうときゆずりを
 さずかりし我らは おののきかしこみ、
 うえもなき宝を たえせずともちて、
 暗き世にかがやく ひかりとならばや。

講演 I

「ウェストミンスター信仰規準による伝道と教会形成」

袴田康裕

はじめに

1. ウェストミンスター神学会議から何を学べるのか

- (1) 彼らは命を懸けてその使命に取り組んだ
- (2) 彼らは国家的なヴィジョンを持っていた
- (3) 彼らは聖書的教会を徹底的に追求した
- (4) 彼らは「教会の自律性」のために闘った
- (5) 彼らの夢は実現できなかった

「これまでに、

彼ら以上に全身全霊をもって真理に取り組んだ人があっただろうか。

あれほど、心を尽くした人があっただろうか。

あれほど、考えてきた全てのことを行ったことがあっただろうか。

そして、彼ら以上に、本当に現実の壁を自覚した人があっただろうか。」

W・ベヴァリッジ『ウェストミンスター神学会議の歴史』

袴田康裕訳、2005年、一麦出版社、142頁

2. 日本キリスト改革派教会とウェストミンスター信仰規準

- (1) 日本キリスト改革派教会は、なぜウェストミンスター信仰規準を採用したのか
- (2) 日本キリスト改革派教会は、ウェストミンスター信仰規準をどのように用いて来たのか
- (3) 今日、日本でウェストミンスター信仰規準を採用する意味は何か

3. ウェストミンスター信仰規準と伝道

- (1) ウェストミンスター信条には、説教を支え、変える力がある
- (2) 宣教の内容が明確になる
- (3) 信徒を本当に福音の慰めで満たすことができる

4. おわりにー御言葉に耳を傾けるー

賛 美 讃美歌 161 (イマヌエルのきみのみ)

Einer ist König, Ismael sieget
Johann Ludwig Konrad Allendorf, 1693-1773

EINER IST KÖNIG
Köthen, 1733

♩ = 80

イ マ ヌ エ ル の き み の み か ち て
あ だ び と ら は ひ れ ふ せ シ オ ンの

よ を ば す べ ま す と こ し え の へ い わ
た み は よ ろ こ べ

を ば あ た え た も う ゆ た か に ア メ ン
(お)

マルコ 15・19

1

イマヌエルのきみのみ 勝ちて世をば続べます。
あだびとらはひれふせ、 シオンの民はよろこべ。
とこしえの平和をば あたえたもう、ゆたかに。

2

いさみ立ちておおしく 神とともにたたかえ、
愛にいます主イエスは くるしみをもやわらげ、
満ちみつるいのちもて 強めたもう、われらを。

3

シオンの民よ、いつまで 汝がこうべを垂るるか、
あおきのぞめ、汝がため そなえらるるかむりを。
勝利の日をのぞみつ つ いざほめ歌うたえや。

[143]

宣言朗読・講演Ⅱ

進行：80周年記念宣言作成委員会

奏楽：田村真理子姉妹

賛美 讃美歌234A（昔主イエスのまきたまいし）

第一部 創立80周年記念宣言朗読

初めに、まさにこのことこそが80周年記念宣言が語るメッセージとその方向性を示す事柄として、IIの部分に分けられ書き記されている80周年記念宣言を、日本キリスト改革派教会のなかの、様々な世代、中会、国籍に属する11名の朗読者たちにより、教派全体に向けて朗読がなされます。

この宣言朗読は、日本キリスト改革派教会第80回大会において採択された創立80周年記念宣言という教会の言葉が、80周年記念信徒大会という記念すべき場で公に宣言されるという意味で、記念碑的な意味を持っています。多彩な朗読者たちが教派として一致して採択した宣言を朗読する姿に、私たちの教会に既に与えられている豊かな恵みを覚えると共に、この先の世代にも備えられている将来の祝福を、共に望み見たいと思います。

宣言朗読者

- 東 北 : 佐々木和雄（仙台）
- 東 関 東 : 李治鎬（松戸小金原）
- 東 部 : 島野愛（坂戸）、金慶熙（坂戸）
- 中 部 : 堂所小羊（恵那）
- 西 部 : 小峯順太（宝塚）、川島利子（滋賀摂理）
- 四 国 : 松本佑紀（高松）、大木萌希（坂出飯山）
- 宣言委員会：大西良嗣、石原知弘

第二部 講演「神の国の夢と幻を今ここに見る」

講演：吉岡契典教師

聖書が語る夢や幻は、儚く消えるような幻想とは全く異なる、力強い神の語りであり、神からの託宣であり、神の顕現です。ヨエル書 3 章 1 節にあるように、神様は、主イエス・キリストを通して始められた神の国の、教会を中心的に用いた現れを通して、さらに聖霊を豊かに注いでくださることによって、この私たちにも確かな夢と幻を見せてくださいます。

聖書 ヨエル書 2 章 21 節-3 章 5 節

- 21 大地よ、恐れるな、喜び躍れ。
主は偉大な御業を成し遂げられた。
- 22 野の獣よ、恐れるな。荒れ野の草地は緑となり
木は実を結び、
いちじくとぶどうは豊かな実りをもたらす。
- 23 シオンの子らよ。
あなたたちの神なる主によって喜び躍れ。
主はあなたたちを救うために
秋の雨を与えて豊かに降らせてくださる。
元のように、秋の雨と春の雨をお与えになる。
- 24 麦打ち場は穀物に満ち
搾り場は新しい酒と油に溢れる。
- 25 わたしがお前たちに送った大軍
すなわち、かみ食らういなご
移住するいなご、若いいなご
食い荒らすいなごの
食い荒らした幾年もの損害をわたしは償う。

- 26 お前たちは豊かに食べて飽き足り
驚くべきことを
お前たちのために成し遂げられた主
お前たちの神なる主の御名を
ほめたたえるであろう。
わたしの民は、とこしえに恥を受けることはない。
- 27 イスラエルのうちにわたしがいることを
お前たちは知るようになる。
わたしはお前たちの神なる主、ほかに神はいない。
わたしの民は、とこしえに恥を受けることはない。
- 1 その後
わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。
あなたたちの息子や娘は預言し
老人は夢を見、若者は幻を見る。
- 2 その日、わたしは
奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ。
- 3 天と地に、しるしを示す。
それは、血と火と煙の柱である。
- 4 主の日、大いなる恐るべき日が来る前に
太陽は闇に、月は血に変わる。
- 5 しかし、主の御名を呼ぶ者は皆、救われる。
主が言われたように
シオンの山、エルサレムには逃れ場があり
主が呼ばれる残りの者はそこにいる。

第三部 「神の国の夢を、今ここで歌おう！」

今ここで、「神の国」の夢が、その豊かさや広がりや、表わされます。
お楽しみに！

K6 YUKI, 1930

TRIUMPH NO. 2
W. H. Vibbert, 1896

♪ 96 むかし主イエスのまきたまいしい

ともちいさきいのちのたねめ

ばえそだちてちのはてまでそ

のえだをはるきとはなりぬアーメン

1
昔主イエスの
いと小いさき
芽生え育ちて
その枝を張る
2
歴史のながれ
返らぬ過去へ
主イエスの建てし
民よりたみへ
播きたまいし
生命のたね、
地のはてまで、
樹とはなりぬ。
3
旧きものを
押しやる間に、
愛の国は
ひろがりゆく。

3
時代の風は
思想の波は
すべての物を
主イエスの国は
4
父なる神よ、
世界の民を
地をばあまねく
みちかいをとく
吹きたけりて、
あいうてども、
超えてすすむ
永久に榮えん。
み名によりて
ひとつとなし、
み国とする
はたしたまえ。

マルコ 4:30-32

[224]

中会のことば

感謝会の時間に、各中会より「中会のことば」が分かち合われます。
ともに、主なる御神の恵みを感謝するときとなりますように。
順番は、設立年が新しい中会からとなります。

- ・東関東中会：27頁
- ・東北中会：31頁
- ・中部中会：34頁
- ・四国中会：38頁
- ・東部中会：43頁
- ・西部中会：48頁

中会のことば

主は恵み深く、慈しみはとこしえに、主の真実は代々に及ぶ。

詩編 100 編 5 節

神が導かれた各中会の歩みへと、共に心を合わせます

- i 設立と教勢 設立の経緯、設立時の教勢、現在の教勢など
 - ii 10年の恵み 70~80周年(2016~2026)の恵みの振り返り
 - iii 課題 神から与えられているチャレンジと中会の応答
-

信徒のあかし

神を畏れる人は皆、聞くがよい

わたしに成し遂げてくださったことを物語ろう。 詩編 66 編 16 節

神が一人びとりの民にあらわしてくださった恵みへと、共に心を合わせます

全員祈禱

主を畏れる人に救いは近く

栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう。 詩編 85 編 10 節

神にささげる各中会の祈りに、心を一つに合わせます



東関東中会設立の経緯



2005年
東部中会第60回定期会で
「東関東中回設立願」決議。
2006年
臨時大会で承認。
7月 東関東中会設立式。
11月 記念信徒大会開催。

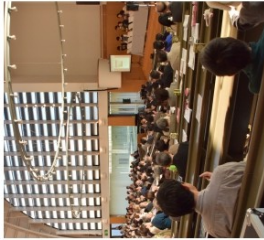
設立時の教勢



現在の教勢



70～80周年（2016～2026）の恵み①



設立10周年記念信徒大会
2016年11月23日
10周年記念宣言を採択「新たな献身」を掲げて10年の歩みを始めました。

70～80周年（2016～2026）の恵み②



花見川伝道所会堂建設
2021年 第一回臨時总会
会堂建設支援を決議する。
2022年10月9日
会堂・牧師館献堂式

70～80周年（2016～2026）の恵み③



設立20周年記念に向けて
この10年で加えられた教師・長老
三川共基、草野誠、金起泰、高内信嗣、宇野元
伊藤敦子、久保田光太郎、堀畑薫、鬼塚啓子
友近信武、平館正敏、大川正義、岩田義信、
斎藤なほみ、元木博光、今津晋成、浅井輝義、
廣瀬太、春名誠、李治驕、山口猛、村松るみ

東関東中会の課題①

20周年記念宣言

- ・祈禱
- ・神学（教理の生活化）
- ・感謝



東関東中会の課題②



伝道

- 伝道所への支援
- 新規開拓伝道
- 海外ミッションとの協力

東関東中会の課題③



教育

- 信徒研修会
- ジュニアキャンプ
- 信仰継承

東関東中会 信徒の証



小竹 智子

松戸小金原教会執事



廣瀬 太

船橋高根教会長老

東関東中会 祈り①

忍耐と慰めの源であられる主なる神様

大会創立80周年を記念する信徒大会を開催せしめてくださり、感謝いたします。そしてこの信徒大会において、各中会を覚えて祈る機会を与えられており、まことに感謝いたします。

東関東中会は、今年設立20周年を迎えます。記念の信徒大会を2027年1月11日に開催する予定で準備しています。設立以来、20年の時を主か導いてくださいました。

東関東中会 祈り②

しかし、首都圏に追わされたわたしたちの中会ですが、コロナ禍以降伝道の課題に直面しています。かつての人口増加地域も高齢化の著しい地域となりました。時代の変化に十分な対応ができません。わたしたちの罪と弱さを懺悔します。

それでも首都圏にはまだ多くの人々がおります。20周年を一つの節目として、新たな伝道の拠点をと願っています。主が志を祝福してください。首都圏伝道の歩みを励まし支えてください。

東関東中会 祈り③

設立20周年宣言も作成中です。東関東中会のヴィジョンとして、祈禱、神学(教理の生活化)、感謝、中会における信仰教育、伝道、愛の働きを項目として検討しています。東関東中会の中会形成を祝福してください。

また、個々の教会・伝道所が長老制度に習熟し、伝道と教会形成に励んでいくことが出来るように導いてください。次の10年期には教師たちの世代交代も起こります。献身者を起こしてください。そのためにも、各教会伝道所の青年層の充実を導いてください。主イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。



東北中会設立の経緯

- ・1981年4月、東部中会、東北中会設立準備委員会を設置
- ・1982年4月、東部中会、東北中会設立決議
- ・1982年10月、大会にて、東北中会設立承認
- ・1983年4月27日、東北中会設立式
(仙台市茂庭荘)、中会設立宣言採択、議長：潮田純一、書記：尾形秀夫

設立時の教勢

- ・教会 4 (仙台、東仙台、仙台栄光、六戸)
 - ・伝道所 6 (石巻、亘理、福島、盛岡、八戸、白石)
 - ・OPC伝道所 1 (北中山) / CRC伝道所 1 (三沢)
 - ・現陪 228名、未陪餐 112名
 - ・教師 9名 (井上、乾、潮田、尾形、松田、藤本、白津、林、吉岡) ,
 - ・長老 15名
 - ・宣教師 6名 (OPC3, CRC2, PCA1)
- *小中会主義の理念をもちて設立し、小回りが利く、当初、全教師・長老が伝道委員会のメンバーであった。

現在の教勢

- ・教会 4 (仙台、東仙台、仙台カナン、盛岡)
 - ・伝道所 9
(仙台栄光、福島、青森、北中山、札幌、白石、八戸、六戸、亘理)
うち無牧の伝道所 8
 - ・現陪 247名、未陪餐 116名
 - ・教師 7名、長老 12名、宣教師 1名
- *設立から教勢の微増はしているがほぼ現状維持の状態。教師・長老は微減となっている。

70～80周年（2016～2026）の恵み①



信徒修養会

- ・2018.9.23～9.24 (茂庭荘) 52名参加
「みことばと共にある生活」講師：風間教師
- ・2019.9.22～9.23 (茂庭荘) 41名参加
「東北の宣教～盛岡伝道を視点にして」
講師：貴海教師・瀬田教師、名古屋恒彦委員
- ・2020.11.23 (オンライン) 40名参加
「バンドミニッツでの教会の働き・運営、伝道・信仰」
発題者：新森田委員・橋元長老・名古屋恒彦委員

70～80周年（2016～2026）の恵み②



信徒修養会

- ・2021.11.3 (オンライン) 40名参加
「キリストに従う」講師：持田浩吉教師
- ・2022.11.3 (オンライン) 50名参加
「伝道について～これからの東北を考える」講師：小笠原教師
- ・2024.9.23 (盛岡&zoom) 60名参加 (12名オンライン) 「これからの東北」講師：風間教師
- ・2025.9.23 (仙台&zoom) 40名参加 (15名オンライン) 「東北で伝道しよう」講師：瀬田教師・尾崎教師

70～80周年（2016～2026）の恵み③

青年・学生会・中高生

- ・小学生キャンプ
(2016年；作並・月山・錦秋湖) 38～67名+スタッフ12～20名参加
- ・中高生の集い・礼拝
(毎年、1か月1回、仙台地区中心に、10～20名の参加)
- ・学生をつどい (2018.19年仙台地区中心に平均5名)
- ・青年の集い (2018年から不定期に仙台と盛岡で行う、10名程度の参加)

70～80周年（2016～2026）の恵み④



教会設立

- ・2023年11月7日、東北中会第二定期会にて盛岡伝道所、教会設立願可決。
- ・2023年12月3日、盛岡教会設立式。3名の長老で小会を設立して、スタート。特命委員：今井教師、風間教師、橋元長老

東北中会の課題

① 東北中会を支える3つの拠点を中心とした宣教の模索

- ・札幌・盛岡・仙台を中心とした宣教
- ② 東北中会の現状における伝道の模索
- ・異教的慣習が根深くあるなかで、どのように地域に福音を語るか
- ・改革派信仰に基づいた伝道を粘り強くする

東北中会 信徒の証



橋元 新
仙台教会会員



名古屋 理恵
盛岡教会長

東北中会 祈り①

東北中会は、広大な地域でありながらも、規模は決して大きくありません。それでも主が今まで東北中会を存続し、保ち、力強く導いておられるあなたの憐れみを見えます。

今まであなたは、さまざまな恵みを東北中会に注いでくださいました。ミッション協力、青少年の集い、女性の会、長老・執事・伝道所委員の会、信徒修養会などの交わりがそうです。これらの恵みにおいて主の宣教が広がりましたことを感謝いたします。これからも変わらずあなたの恵みを信じて、東北中会が導かれますように。

東北中会 祈り②

東北中会は、仙台・盛岡・札幌といった3つの拠点を通して、変わらぬあなたのために伝道いたします。どうか、あなたが無遠慮の心から決めておられる選びの民をこの東北中会に起こして下さい。異教の戦いなどさまざまな試練があるなかで、力強く前を向いておられる東北中会の一人一人の上に、主の力を豊かに注いでくださいますように。

主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。
アーメン。

70～80周年（2016～2026）の恵み①



浜松教会 教会設立

- 伝道開始：1967年4月
- 設立日：2023年2月12日
- 設立時の現任陪餐会員数30名
- 長老5名、執事3名が任職

70～80周年（2016～2026）の恵み②



中会設立65周年

- 設立65周年記念宣言を採択
(2024年4月22日、第一回定期会)
- 設立65周年記念信徒大会を実施
(2024年11月4日)

70～80周年（2016～2026）の恵み③



中会主導の事業など

- ・キリストへの時間
- ・静岡キリスト教盲人伝道センター
- ・雀のお宿キリスト教会館

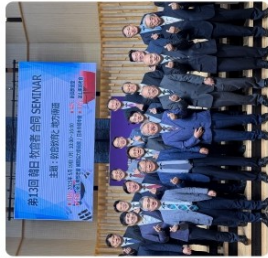
中部中会の課題①



伝道と教会形成

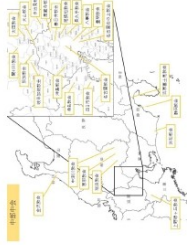
- ・伝道と信徒の育成
- ・高齢信徒が生き生きと信仰生活を送ることができる教会形成

中部中会の課題②



日韓教会の協力・交流
中会の業としてより豊かな協力・交流を目指す

中部中会の課題③



支え合う教会形成

- 多様性の尊重
- 中会を「ひとつの教会」とする意識の育成
- 近隣教会同士の地域ごとの交流

中部中会 信徒の証



望月 千雅子
静岡教会執事
信徒説教者



高井 夏和花
那加教会会員

中部中会 祈り①

主よ、中部中会を設立から65年以上にわたり守り導いてくださったことを感謝いたします。中部中会は飼い主のいない羊のような人々に、キリストによる真の慰めの共同体を提示し、その中に人々を招く働きを担いたく願っています。

中会内の諸教会が、聖霊による一致を信じ、互いの多様性を尊重しつつ、互いの群れに関心を持ち、互いの苦勞を「私たちの教会の事柄」として互いに祈り合い、配慮し支え合うものとならせてください。

中部中会 祈り②

また教会に高齢の信徒が与えられている恵みを覚えつつ「老い」を主の祝福ととらえる信仰的な確信を明らかにし、世に率先して証しすることによって、「老い」を避けようとする世への光となることを教会の使命と受け止めます。この使命に応え、高齢信徒が生き活きと信仰生活を送ることができる教会を形成してゆけますように。

そのような慰めの共同体を築くためにも伝道と信徒の育成にいいよ努めることができよう。愛知県長久手における日韓協力伝道を引き続き中会の業として進めつつ、今後の協力・交流がより豊かになるよう導いてください。

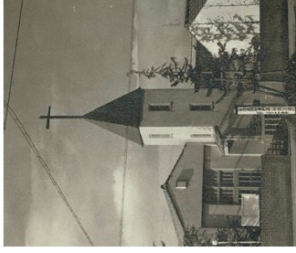
中部中会 祈り③

私たちはなおお聖化の途上にあり、罪と弱さを免れない者です。しかし私たちは主イエス・キリストを見つめ、終末の希望をもってあなたに仕えてまいります。

どうぞ私たちを、慰めの共同体としての中部中会形成のために、豊かに用いてください。主イエス・キリストの御名によって祈ります。
アーメン。



四国中会設立の経緯



1950年10月26日、第五回大会定期会において四国中会設立が可決。

1951年3月23日、高松教会にて四国中会設立式が挙行。

翌24日、第一回中会定期会が開催。

設立時の教勢



教会 8
伝道所 6
信徒数 約400名

現在の教勢



教会 11
伝道所 5
信徒数 約400名

70～80周年（2016～2026）の恵み①



- 海外の改革派・長老主義教会との友好関係の深まり
- ・大韓イエス教長老会（高神派）ソウル西部老会との相互の問安使派遣
 - ・南アフリカ若手牧師訪問団来日

70～80周年（2016～2026）の恵み②



- 海外の改革派・長老主義教会との友好関係の深まり
- ・韓国ヴィジヨントリップの開催
 - ・ミッシヨンジヤパンとの宣教協力合意の改定

70～80周年（2016～2026）の恵み③



信徒修養会の恵み

- ・四国中会信徒修養会
2017年7月17、18日
高知市高志サンピア・セリース
- ・西部・四国合同信徒修養会
2024年3月20、21日
岡山県総社市サントピア岡山総社

四国中会の課題①



信仰継承

- ・バイブルキャンプの継続
- ・中高生を対象とするキャンプ・修養会の整備
- ・四国中会単独の修養会開催

四国中会の課題②



国内外の改革派・長老主義教会との友好関係の継続と強化

- ・大韓イエス教長老会（高神派）ソウル西部長老会との相互の問安師派遣
- ・ミッシヨンジパンを通して南アフリカからの宣教師派遣

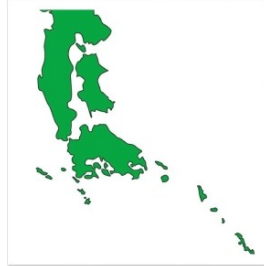
四国中会の課題③



国内外の改革派・長老主義教会との友好関係の継続と強化

- ・国内外の改革派・長老主義教会から講師を招いた修養会・教師会

四国中会の課題④



西部中会との協力による西

日本伝道

- ・将来的な中会のあり方への模索
- ・合同の修養会の開催
- ・合同の夏のキャンプの開催
- ・委員会などでの協力

四国中会 信徒の証



沼田 美和
徳島教会長老



芝 恵二
坂出飯山教会長老

四国中会 祈り①

深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。
主よ、あなたが与えられた困難はいかに大きなものでしょう。
「戦争の時代」は遠い地のことではありません。
私たちの生きる小さな町にも争いの芽が増え広がっています。
しかし、平和が訪れる。真実に歩む人は横たわって願う。

四国中会 祈り②

大災害は遅くない時期にやってきました。
私たちの生きる地も南海トラフ地震、豪雨、台風の脅威にさらされています。
しかし、慈しみは主を畏れる人を超えてください。
経済危機、働き手の減少、将来不安は深刻です。
私たちの生きる教会も世と等しい苦悩を味わっています。
しかし、わたしの助けは来る。天地を造られた主のものとから。

四国中会 祈り③

ならば、感謝をもって、あなたがぐくさる苦い杯をいただきましょう。
主は御自分の民を喜び、貧しい人を救いの喜びで装われる。
ならば、新しい歌を歌い続けましょう。
最後まで耐え忍ぶ者は救われる。
ならば、新しい旋に生き続けましょう。

四国中会 祈り④

神の言葉はとこしえに立つ。
私たちの心が折れるときにも、あなたは愛を注ぐことを惜しまれません。
だから、愛の中で真理を語りましょう。私たちのすべてであられるあなたと共に。
キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さは人の知識をはるかに超える。

四国中会 祈り⑤

小さな群れは、しかし、神の言葉に従う群れ。
私たちはこの地に生きます。
この地で御言葉に立ちます。
この地から語り続けます。
あなたの祝福は天の星のように、海辺の砂のように全地に広がります。

四国中会 祈り⑥

瀬戸内海よ、四国山地よ、吉野川よ、四万十川よ、太平洋よ、
主を賛美せよ。
ハンガン（漢江）よ、ナムサン（南山）よ、主を賛美せよ。
ブライデリバー・キヤニオンよ、テーブルマウンテンよ、主
を賛美せよ。

四国中会 祈り⑦

神の栄光が平和の絆に結ばれた者らの間に輝いています。
永遠を想い、今を生きよう。人を想い、世界を愛そう。
神ならざるものを崇める地の真ん中で、心を高く上げて祈ろう。
神がわたしたちを祝福してくださいように。
地の果てに至るまで、すべてのものが神を畏れ敬いますように。
マラナ・タ（主よ、来てください）
アーメン

引用・参照聖句 詩130:1、イザ57:2、詩103:11、詩121:2、詩149:1、マタ24:13、イザ40:8
エフエ3:18,19、IIテモ4:2、創22:17、詩69:35、詩117:1、詩148:13、詩67:8



東部中会設立の経緯

1946年4月26日、東部中会の準備中会開催出席議員

教師：常葉隆興（議長）、松尾武（書記）
長老：川島橋三郎（中会会計） 合計13名

- 中会名 日本基督改革派教会東部中会
- 信条 四つの古典信条のウ信仰告白
- 教会政治 長老主義政治をとる
- 常葉隆興の説教の言葉

『わが教会の創立が『人間から出たもの』ではなく『神から出たもの』であることを確信する。』

設立時の教勢

教会 3

会員数 55名

- 麻布森元町教会 常葉隆興牧師 会員数25名
- 北浦和教会 松尾武牧師 会員数10名
またよほんちよう
- 仙台北四番町教会 渡辺公平教師補志願者 会員数20名

(出典：『東部中会55年の歩み』 p.20, 388)

現在の教勢

1976年 盛岡伝道所設立 (25周年記念開拓伝道)

1981年 長野伝道所設立 (35周年記念開拓伝道)

1983年 東北中会設立

1991年 宇都宮伝道所設立 (45周年記念開拓伝道)

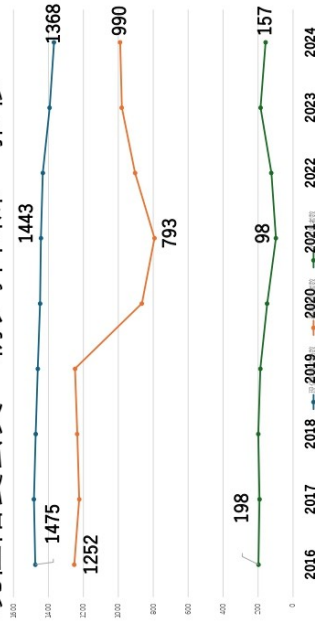
2001年 新浦安伝道所設立 (55周年記念開拓伝道)

2006年 東関東中会設立

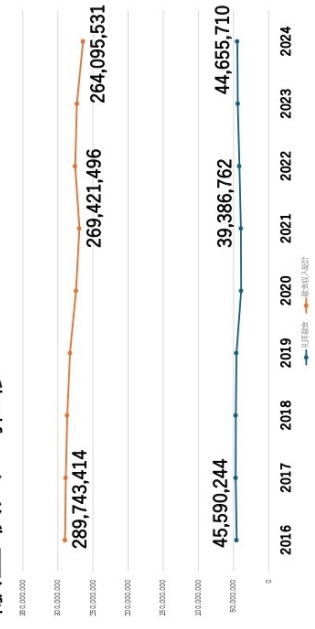
2025年現在

教会数 31 伝道所数 5 現住陪餐会員 1368名

現任陪餐会員・朝夕拝出席 推移



献金収入 推移



70～80周年 (2016～2026) の恵み①

教会設立

- 2016年 長野伝道所・佐久伝道所の合併 (牧野信成教師)
- 2017年 光が丘キリスト教会設立 (尾崎純教師)
- 2019年 川越教会設立 (木村恭子教師)
- 2019年 新所沢教会設立 (長田詠喜教師)
- 2023年 横浜教会といずみ伝道所の合併 (千ヶ崎基教師)
- 2024年 長野まきは教会設立 (牧野信成教師)

70～80周年 (2016～2026) の恵み②

首都圏伝道

2016年 草加伝道プロジェクト提案を可決

首都圏伝道の活性化のため、従来10年ごとに行っていた開拓伝道を取りやめ、代わりに中会事業として草加伝道プロジェクトを立ち上げた。

無牧だった草加松原伝道所に、中会から財政と人材を送り込み、草加松原伝道所と埼玉東部地区を活性化し、東部中会全体にも益をもたらすことを目指している。

70～80周年（2016～2026）の恵み③

75周年記念宣言採択

2021年7月6日採択（前文）

わたしたちは変わることのない神の国の訪れの中に生きています。日本キリスト改革派教会の創立と共に歩む東部中会は、地上における神の国の現れとしての「教会形成」を目標に進んできました。特に65周年では、伝道の宣言をなし、ともに福音を宣教すること、とりわけ首領團伝道の活性化を新たな思いをもって神の前に誓いました。わたしたちは東部中会創立七十五周年を迎えるにあたって、今日まで主が導き、豊かな恵みをあたえてくださったことに感謝しつつ、主と教会に心から仕え、神の国の福音をたゆまず宣教していくことを決意します。

東部中会の課題① 75周年記念宣言の理念

「神の国を証しする、愛し合うまじわりの形成へ」

- ・まじわり（コイノーニア）の源である福音を味わい喜ぶ
- ・互いを愛するまじわり（コイノーニア）
- ・互いに仕え合い成長するまじわり（コイノーニア）
- ・証しをするまじわり（コイノーニア）
- ・中会へ広がるとまじわり（コイノーニア）と長期計画

東部中会の課題② 長期計画

I 東部中会の成長に向かって — 「協力」して

- ・首都圏伝道の方針立て
- ・東北中会との協力
- ・甲信地区伝道 等

II 改革派信仰の原点に立ち返る

— ひとりひとりの「成長」を目指して

- ・信仰教育による霊的成長
- ・信仰継承の現状と希望
- ・教会役員の育成 等

東部中会の課題③ 長期計画

III 福音の力に生きる教会 — 「忠実」に主に仕える

- ・福音の礼拝と牧会的共同体としてのまじわり（コイノーニア）
- ・長老主義政治による中会運営
- ・課題検討委員会

東部中会の課題④ 祈り

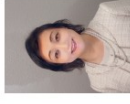
「死に至るまで忠実であれ、そうすれば、あなたに命の冠を授けよう」（ヨハネの黙示録2章10節）

父なる神よ、これから始まる十年に向けてわたしたちは今ここに宣言と長期計画を作成しました。どうかわたしたちの祈りを御心のままに導いてください。あなたの御名をたたえることができきるキリストの教会としてください。わたしたちが最後まで忠実にあなたに仕え、主の約束の御言葉どおりに勝利の栄冠を受けることができますように。栄光が代々眠りなく神にありませうように。

東部中会 信徒の証



小堀 尚美
花小金井教会会員



西川 園美
横浜中央教会会員

東部中会 祈り①

天の父なる神よ。東部中会をこの10年間、守り導いてくださり、ありがとうございます。

東部中会は、2021年に創立75周年を迎え、コロナ禍でしたが、翌年、記念信徒大会を開催することがゆるされ、これからまたゆめす神の国の福音を宣教し続けることを決意いたしました。

この10年間、教会設立、教師任職、教師候補者登録、信徒説教者就任など多くの恵みが与えられましたことを感謝いたします。

東部中会 祈り②

東部中会に属していませんが教会、伝道所がこれからも主のために仕えていくことができますようにお導きください。イエス・キリストの十字架と復活によって現された福音の力に支えられて、礼拝のまじわりを重んじる中会形成をこれからも行っていくことができますように。

東部中会に連なる教会、伝道所が神の国の福音に生かされ、信徒一人一人が喜びに満たされた信仰生活を送ることができませうように。それぞれの群れがあなたから与えられている課題を乗り越えて、イエス・キリストの体としてこれからも成長していくことができますように。

東部中会 祈り③

東部中会に属していません教師候補者の教師任職、就職までの準備をどうか守り導いてください。

東部中会が「死に至るまで忠実であれ、そうすれば、あなたに命の冠を授けよう」(黙示録2:10) という主の約束に最後まで信頼し、主に仕えていくことができますようにお導きください。すべてを主に委ね、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン



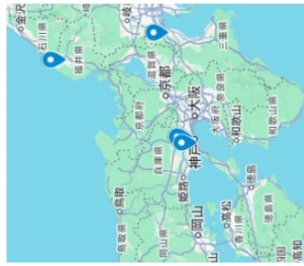
西部中会設立の経緯

- 1945年 設立を決議 (関西中会)
- 1946年 関西中会設立
- 1947年 神戸改革派神学校開校
- 1951年 四国中会設立
- 1952年 神戸改革派神学校、大会へ
- 1956年 中部中会設立



1956年 第18回 聖職者会

設立時の教勢



教会 4
福井
四日市
灘
西代

現在の教勢



教会 18
伝道所 16
会員総数 2414名
現住陪餐 1184名

70～80周年（2016～2026）の恵み①



但馬みくに伝道所誕生



甲子園教会設立

70～80周年（2016～2026）の恵み②



四国中会との合同信徒修養会

2024年3月 岡山総社で開催

四国中会 102名

西部中会 139名参加

70～80周年（2016～2026）の恵み③



四国中会との合同の小学生

キャンプ

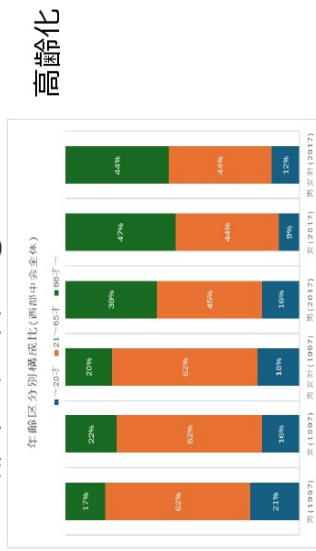
2025年7月

四国中会の小学生 15名

西部中会の小学生 47名

スタッフを含めて105名

西部中会の課題①



西部中会の課題②



ディアコニア

- 平和のために
- 震災に備えて

西部中会の課題③



次世代の信仰者の教育

西部中会 信徒の証



赤井 武大

西部中会連合学生会会長
船橋高根教会会員



下元 愛理
板宿教会会員

西部中会 祈り①

(嘆き)

主よ

私たちの前に困難があります。この10年間に、コロナ・ウイルス禍を経験し、礼拝出席者の減少や経済的な不足、伝道の不振に悩んでいます。年配者も若者も労苦を続けています。(願い)

主よ、いつまで続くのでしょうか。これらの困難に対処する力が私たちにはありません。御顔を向けてください、私たちを清めて、あなたのご栄光で照らししてください。

西部中会 祈り②

(告白)

主よ、かつてあなたはイスラエルを憐れみ、苦難から救い出してくださいました。同じように、戦禍の後、1946年の大会創立以来、西部中会を養い育て、海外宣教師の働きと大会伝道の祈りにも応えてくださり、関西ばかりでなく、中国、九州、沖縄の各地にまで教会を立ててくださいました。

80年にわたるあなたの憐れみと導きは、困難の前にしてなお、あなたがまったく信頼すべきお方であることを示しています。

西部中会 祈り③

(希望)

新たに信仰を与えられる人、献身を志す人が起こされています。時には集会に予想を超えて多くの参加者が与えられています。すべてはあなたのなされる恵みの業です。時が良くても悪くても、キリストの福音をあますところなく伝えさせてください。

今、ハンガリーに宣教師を送り出しました。また四国中会との新たな協力へと導かれています。伝道の幻を祝福し、主の愛に満ちあふれた神の国を地の果てにまで進展させてください。

西部中会 祈り④

私たちのかしらであり、すべてにおいてすべてを満たしておられるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。

閉会祈禱会

司会：石原 恵 姉妹

奏楽：田村 眞理子 姉妹

挨拶 坂井 孝宏 教師
(80周年記念信徒大会特別委員会委員長)

聖書 ルカによる福音書 12章 29-32節

祈禱 大西 利子 長老
古澤 純人 教師

賛美 ジュネーヴ詩編歌 150

聖書 ルカによる福音書 12章 29-32節

²⁹ あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。³⁰ それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。³¹ ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。³² 小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。

1.主 を ほ め う た え、
 2.つな を のら ぶ え、 う ぶん たき て、
 3.な ら せ シ ン バ ル、

そ た ひ の て び せ げ い と、 じょ にな て、
 ひ び シ ン バ ル、

主 主 主 を を さ さ ん ん び び せ せ よ。 よ。
 主 を を さ さ ん ん び び せ せ よ。 よ。

主 た か の い み と こ を り に あ で あ が な わ め る せ。 よ。

お か い お み き そ の ら さ あ で ん ほ め せ よ。 よ。 は、
 の の ら さ あ で ん ほ め せ よ。 よ。 は、

つ お こ よ ど え き り を ち ま あ か い わ ら つ せ の つ、 て

み ぶ 主 わ え を さ と さ の げ ん ゆ ん び え も せ に て、 よ、

主 か 八 の み レ み を ル な さ や、 を ん 八 ほ び レ め せ ル よ。 よ。 や。

1

主^{しゅ}をほめうたえ、
その聖所^{せいじよ}にて、
主^{しゅ}を讚美^{さんび}せよ。
主^{しゅ}の砦^{とりで}なる
大空^{おおぞら}でほめよ。
強^{つよ}き力^{ちから}の
御業^{みわざ}のゆえに
主^{しゅ}の御名^{みな}をほめよ。

2

角笛^{つのふえ}、吹^ふきて、
豎琴^{たてごと}、かなで、
主^{しゅ}を讚美^{さんび}せよ。
太鼓^{たいこ}にあわせ、
神^{かみ}を讚美^{さんび}せよ。
踊^{おど}り舞^まいつつ、
笛^{ふえ}と弦^{げん}もて
神^{かみ}を讚美^{さんび}せよ。

3

鳴^ならせシンバル、
響^{ひび}けシンバル、
主^{しゅ}を讚美^{さんび}せよ。
神^{かみ}をあがめよ。
息^{いき}のある者^{もの}は、
声^{こえ}をあわせて
主^{しゅ}を讚美^{さんび}せよ、
ハレルヤ、ハレルヤ。

CRC 挨拶文

本 文

Greetings for this wondrous 80th Year Celebration.

We would like to share a short message from Resonate Global Mission representatives:

Rev. Zachary King, General Secretary of CRCNA

Rev. Rich Sytsma, Former Missionary CRJM

Rev. Jeong Gho, Current Missionary CRJM

Zachary King Greetings

Brothers and sisters of the Reformed Church in Japan. My name is Zachary King, and I serve as the General Secretary of the Christian Reformed Church in North America. And it's my special privilege to bring you greetings and congratulations on behalf of our 950 Christian Reformed churches in the United States, North America, and several other places around the world. It's exciting to see the way God has worked through the 80 years of the history of your church and of the connection that we've had through the Christian Reformed Japanese Ministry. Through Christian Reform World Missions and Resonate Global Mission, I've had the

privilege of worshiping and preaching in several of your congregations and attending your general assembly. And, in fact, one of our former missionaries back in the 50s, Ed and Fran Van Bock, married my wife and I before we served in missions as well. So, we are part of your story. And we wish you congratulations on this wonderful occasion. And we pray that God will continue to support your denomination, your churches, through raising up new leaders, through helping you through the Holy Spirit to establish church plants and allowing the gospel to be proclaimed in your country. Thank you and we wish you blessings.

We praise God for 80 years of blessing on the RCJ. We thank him that the CRJM has had the privilege of serving side-by-side with the RCJ the last 75 years. Two anniversaries: the RCJ's 80th anniversary and the 75th anniversary of RCJ-CRJM cooperation. The relationship of the RCJ and the CRCNA started with the friendship of Rev. Takeshi Matsuo and CRC army officer Dr. Henry Stob. Rev. Matsuo served as interpreter and translator for Dr. Stob, who served on the staff of General MacArthur in 1945-1946. Dr. Stob helped Rev. Matsuo and his colleagues when they founded the RCJ. He also was the first to inform the CRC of the founding of the RCJ. Dr. Stob later taught at Calvin College and Calvin Seminary. The withdrawal of CRC missionaries from China after the Communist takeover led the CRC to send missionaries to Japan. In 1950 Rev. Al Smit, the last CRC missionary to leave China, met with Rev. Tokiwa and other RCJ pastors in Japan on his way back to America. As a result of that meeting the RCJ invited the CRC to send missionaries to Japan. In 1951 Rev. Henry and Eunice Bruinooge, Rev. Edward and Frances Van Baak, and Magdalena Koets came to Japan? all of whom had previously served as

missionaries to China. The CRJM thanks God for the privilege of serving with the RCJ and for his blessing on our mission teamwork for 75 years. The RCJ and CRJM adopted a 'side by side' cooperation model. This was not merely a motto that encouraged us as partners. It described a cooperation marked by trust, equality and respect. It described brothers and sisters united by a common goal and desire to glorify God by spreading the gospel. We shared the same Reformed faith and the vision of growing the church in Japan. Working together, we were at the same time both independent and interdependent. RCJ-CRJM pastor-missionary teams have served side by side in church planting, radio and media evangelism, disaster relief, leadership training, and other supporting ministries. The CRJM has supported RCJ ministries such as Kobe Reformed Theological Seminary, Shizuoka Center for Evangelism of the Blind, and the Holy Grace Rehabilitation Center. The mission also has had the privilege of providing needed financial assistance to many RCJ congregations. The CRJM would not have been able to serve with the RCJ as it has without the support of the Christian Academy in Japan (CAJ). This school is partly owned

and operated by the CRJM and provides a quality Christian education to the children of missionaries. Over 100 CRJM children have benefitted from the excellent education that CAJ offers. Many CRJM missionaries have served on the staff and board of CAJ.

Let us trust in Jesus' promise, 'I will build my church.' We pray that he will call more

young leaders to replace the many RCJ pastors who are retiring. May God bless the RCJ with wisdom, strength and vitality. As CRJM missionaries we hope that God will use our modest efforts in cooperation with you to help build his church in Japan. 'Thy kingdom come' Is our prayer.

Jeong Gho

Throughout the 75 years of journeying, the CRCNA and CRJM have gone through many changes. These changes have brought many good opportunities to CRJM. 75 years ago, CRJM started church planting ministry and planted 46 churches. From 2000, with the changes of the mission's policies, CRJM began to offer Vision Tours to connect RCJ churches to the churches in neighboring countries and invited many pastors to Church Planter's Institute to connect RCJ churches to other churches and mission organizations in Japan. Soon, many RCJ leaders joined us for these changes. Along with these ministers, CRJM began to offer Discovery Bible Study

Leader's Training from 2000 and Timothy Leadership Training from 2011. These ministries helped spread CRJM's leadership training ministries to all of the six presbyteries of RCJ churches. Now, many churches are using these trainings for their works. Praise the Lord! In 2017, Christian Reformed World Mission and Christian Reformed Home Missions merged into one under the new name, Resonate Global Mission. Our dream and commitment to our mission work in Japan will not be diminished, but will flourish continually. May the Lord be with us, RCJ and CRCNA, continually for many more years of mission journey together!

翻 訳

素晴らしい 80 周年記念信徒大会に際し、心よりお祝い申し上げます。

レゾネート・グローバル・ミッションの代表者から短いメッセージをお届けします。

ザカリー・キング牧師 (CRCNA 総主事)

リチャード・サイツマ牧師 (元 CRJM 宣教師)

ジョン・ゴーク牧師 (現 CRJM 宣教師)

ザカリー・キング牧師より

日本キリスト改革派教会の兄弟姉妹の皆様。ザカリー・キングと申します。北米キリスト改革派教会(CRCNA)の総主事を務めております。米国、北米、そして世界各地にある 950 の改革派教会を代表して、皆様にご挨拶と祝意をお伝えできることを大変光栄に思います。

皆様の教会の 80 年の歴史、そしてこの宣教を通して築いてきたつながりを通して、神がどのような働きをされたのかを目の当たりにできることは、大変感動的です。クリスチャン・リフォーム・ワールド・ミッションズとレゾネート・グローバル・ミッションを通して、私は皆様の教会のいくつかで礼拝や説教を行い、総会に出席する機会に恵ま

れました。また実は、1950 年代に宣教師として活動していたエドとフラン・ヴァン・ボック夫妻は、私たち夫婦が宣教活動に携わる前に結婚式を執り行ってくれました。ですから、私たちは皆様の教会の歴史の一部なのです。この素晴らしい機会に心からお祝い申し上げます。

そして神が皆様の教会を支え続け、新たな指導者を育成し、聖霊の働きによって教会開拓を助け、貴国で福音を宣べ伝えることができるようお祈りいたします。感謝申し上げます。祝福がありますように。

リチャード・サイツマ牧師より

日本キリスト改革派教会(RCJ が、80 年間祝福を受けられたことを神に感謝いたします。また、CRJM(基督改革派日

本伝道)) が過去 75 年間、RCJ と共に奉仕できたことを神に感謝いたします。

2つの記念日：RCJの80周年と、RCJとCRJMの協力75周年

RCJとCRCNAの関係は、松尾武牧師とCRC陸軍将校のヘンリー・ストブ博士の友情から始まりました。松尾牧師は、1945年から1946年にかけてマッカーサー将軍のスタッフを務めたストブ博士の通訳と翻訳者を務めました。ストブ博士は、松尾牧師とその同僚がRCJを設立する際に支援しました。また、RCJの設立をCRCに最初に知らせたのもストブ博士でした。ストブ博士は後にカルヴィン大学とカルヴィン神学校で教鞭を執りました。

共産党による政権奪取後、CRCの宣教師が中国から撤退したことで、CRCは日本に宣教師を派遣することになりました。1950年、中国を去った最後のCRC宣教師であるアル・スミット牧師は、アメリカへの帰途、日本で常葉牧師や他のRCJの牧師たちと会いました。その会合の結果、RCJはCRCに日本への宣教師派遣を要請しました。

1951年、ヘンリー・ブルイヌージ牧師とユニーヌ夫人、エドワード・ヴァン・パーク牧師とフランシス夫人、そしてマグダレーナ・コーツが日本にやって来ました。彼らは皆、以前に中国で宣教師として奉仕していました。

CRJMは、RCJと共に奉仕する特権と、75年間にわたる私たちの宣教チームワークへの神の祝福に感謝しています。RCJとCRJMは、a'side by side'

cooperation model（「並んで」協力するモデル）を採用しました。これは単にパートナーとして私たちを励ますモットーではありませんでした。それは信頼、平等、そして尊敬によって特徴づけられる協力関係を表していました。それは、福音を広めることによって神を栄光に帰するという共通の目標と願いによって結ばれた兄弟姉妹を表していました。私たちは同じ改革派の信仰と、日本で教会を成長させるというビジョンを共有していました。私たちは共に働く中で、独立性と相互依存の両方を同時に兼ね備えていました。

RCJ-CRJMの牧師・宣教師チームは、教会開拓、ラジオやメディアを通じた伝道、災害救援、リーダーシップ育成、その他の支援活動において、共に奉仕してきました。CRJMは、神戸改革派神学校、静岡盲人伝道センター、ホーリー・グレース・リハビリテーションセンターなど、RCJの様々な活動を支援してきました。また、多くのRCJの教会に財政支援を提供するという光栄にも恵まれました。

CRJMがRCJと共にこのような活動を行うことができたのは、クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン(CAJ)の支援があってこそです。この学校はCRJMが一部所有・運営しており、宣教師の子どもたちに質の高いキリスト教

教育を提供しています。100名以上のCRJMの子どもたちが、CAJが提供する優れた教育の恩恵を受けてきました。多くのCRJM宣教師がCAJの職員や理事を務めています。

イエスの「わたしはわたしの教会を建てる」という約束を信じましょう。引退する多くのRCJ牧師の後を継ぐ若い指導者たちが、イエスによって召され

るよう祈ります。神がRCJに知恵と力と活力を授けてくださいますように。CRJMの宣教師として、神が私たちのささやかな働きを、皆様との協力のもとに用い、日本における神の教会の建設に役立ててくださるよう願っています。「御国が来ますように」というのが私たちの祈りです。

ジョン・ゴー牧師より

CRCNAとCRJMは、75年にわたる歩みの中で、多くの変化を経験してきました。これらの変化は、CRJMに多くの素晴らしい機会をもたらしました。75年前、CRJMは教会開拓宣教を開始し、46の教会を設立しました。

2000年からは宣教方針の変更に伴い、CRJMはRCJ教会と近隣諸国の教会を結びつけるためのビジョンツアーの提供を開始し、RCJ教会と日本の他の教会や宣教団体を結びつけるために、多くの牧師を教会開拓者訓練会に招きました。間もなく、多くのRCJ指導者がこれらの変化に加わりました。これらの牧師たちと共に、CRJMは2000年から聖書発見学習リーダー訓練、2011年からTLT(テモテ指導者訓練会)の提供を開始しました。これらの活動は、

CRJMの指導者養成講座をRCJの教会の6つの中会すべてに広めるのに役立ちました。現在、多くの教会がこれらの研修を宣教活動に活用しています。主を賛美します！

2017年、クリスチャン・リフォームド・ワールド・ミッションとクリスチャン・リフォームド・ホーム・ミッションは合併しレゾネート・グローバル・ミッションという新たな名称となりました。日本における宣教活動への私たちの夢と献身は、決して衰えることはなく、ますます力強く発展していくことでしょう。

RCJとCRCNAと共に、これからも末永く宣教の旅を続けられるよう、主が私たちと共におられますように。

四国学院と神戸改革派神学校との歴史

1947年秋、戦後に再開された第一回の米国南長老教会日本ミッション会議において、神戸改革派神学校予科を本科から切り離し、四年生の男子カレッジを創設する計画案が可決される。福音の宣教と共に教育を重んじる米国南長老教会のミッション世界伝道局は、戦後の日本にどんな援助をしたら良いかということについて検討の結果、戦前から希望を抱いていたキリスト教主義の大学を設立することになった。

米国南長老教会の3Mと呼ばれた宣教師J・A・マカルピン、W・A・マキルエン、特にL・W・モーアが中心となり大学設立準備に向けて奔

走(モーア師は1947年10月1日付で米陸軍の軍籍を離れ、正式に日本ミッションのメンバーとして丸亀市で居を構えておられた)。当初は候補地に高松市も挙げられていた。

1948年5月、L・W・モーア宣教師が発起人となり、善通寺で全改革派修養会が開催される。

1949年、善通寺教会の石丸幸助牧師は善通寺の中心部にある旧騎兵連隊跡地の払い下げについて、町議会を説得(石丸牧師は1947年4月に実施された統一地方選挙で善通寺町議に当選されていた)。米国南長老教会ミッションは土地の取得に成功する。



(開学当時の学園の風景)

同年秋には、四国基督教学園の財団法人設立が認可され、翌50年3月には各種学校設立が認可された。初代学園長は、L・W・モーア宣教師。そして、50年4月25日、新任の教職員及び神戸より移って来た神学校予科生(学園の2年次・3年次に編入)と、新たに募集した学生を加えての開学式が挙行される。教員8名、学生36名の船出であった。

なお、神学校本科は同年9月に校舎として用いていた灘教会より一度、熊内に移り、その後で、灘区高羽寿の新校舎に移転している(11月23日に献堂式が行われている)。

四国基督教学園においては、改革派信仰が校是として掲げられ、教職

員のほとんどが、日本キリスト改革派教会の会員であり、学ぶ学生も神戸改革派神学校予科性を主とするものであったから、学園全体が改革派信仰の雰囲気に含まれていた。そのため、善通寺の町の人びとは、「学園」を正式な名称ではなく、「キリストさん」と呼ぶようになる。

1959年、学校法人四国学院設置。四国学院短期大学(基督教科、英語科)開学。

1962年、四国学院大学開学。文学部(英文学科、基督教学科)設置。四国学院は大学文学部と短期大学英語科をもつ学園となる。

1967年、四国学院大学基督教学科が発展解消し、人文学科設置。



(開学式の様子)



(チャペルの様子)

【参考文献】

- ・『日本基督改革派善通寺教会 三十年の歩み』(1978)
- ・『四国学院創立 30 周年記念写真集』(1978)
- ・『日本基督改革派灘教会七十年史 信仰の継承のために』(1982)
- ・『写真で見る四国学院 50 年の歩み』(1999)
- ・『目で見る 中讃・西讃の 100 年 写真が語る激動のふるさと一世紀』(2000)
- ・『神戸改革派神学校史』(2017)
- ・四国学院大学 HP 「沿革」 <https://www.sg-u.ac.jp/about/history/>
- ・青山学院大学情報センター資料(panel-168-四国学院)
<https://www.cc.aoyama.ac.jp/~soperprog/pdf/ShikokuGakuin.pdf>

四国学院アラカルト・ラリー

四国学院大学(旧・四国基督教学園)の地に刻まれた、南長老ミッションと日本キリスト改革派教会の、主への情熱の跡をたどってみましょう。

それぞれの場所は、6・7 頁に掲載されているキャンパスマップをご参照ください。それぞれの場所に行っていただくと、右のような 80 周年記念信徒大会のロゴが描かれたカードを見つけることができます。そのカードの裏には、穴埋め問題が記されています。そこに入る言葉を繋ぎ合わせると、一つの文章になりますので、ぜひ、すべての場所をめぐり、文章を完成させてください。完成させることができた方は、スタッフジャンパーを着ている者にお声かけください。先着 200 名の方に、80 周年記念特別マグネットをプレゼントいたします。



さて、このラリーを、ナビゲートしてくれるのは、
得永幸子「家族史からみた四国学院(1)・(2)」(『風跡』)に記された言葉たち。
少し、先立って、その言葉に耳を澄ませてみましょう。

誰にでも誕生日がある。四国学院にも誕生日はあった。法人としての誕生日は 1949 年秋のことだったが、本当の誕生日は翌 50 年 4 月 25 日、キャンパスに学生たちを迎え入れた時であったと言えるだろう。

太平洋戦争敗戦後、多くのいのちを失い、深い虚脱と無力感の中に沈んでいたこの地に、新しい学校ができ、学生たちと、学生とさほど歳の変わらない若い教職員計 44 人が移り住んできたことが、善通寺という町をどれほど活性化させたことだろうか。久しく見ることのなかった健康で生き生きした若い男性たちの群れは、人々の目にまぶしく輝くように映ったに違いない。教職員は家族を連れての移住だったから、妻や子どもたちの声の明るさもまた新鮮であっただろう。一方、四国学院がアメリカ合衆国の

宜教団によって建てられたことから、四国学院の存在を米国による占領の一形態と感じ、苦々しい思いを抱いた人たちもまた少なからずいたに違いない。当時、町の人々は四国学院のことを、学校名「四国基督教学園」の名を省略して、「キリストさん」あるいは「キリスト」と呼び捨てにしていた。その響きには多くの場合、親しみが込められていたが、時として揶揄するような響き、あるいは余所者扱いの匂いがあることを、幼いながら私はいつも感じていた。それでも人々は学生たちを受け入れ、時には養い、面倒を見てくれた。そして町の大人たちは構内を散歩道として、あるいは単なる通り抜けの通路として自由に利用し、ただ、だっ広いだけの雑草生い茂るキャンパスは学校帰りに遊ぶ地域の子どもたちの歓声であふれかえていた。

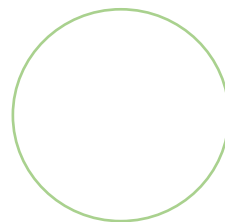
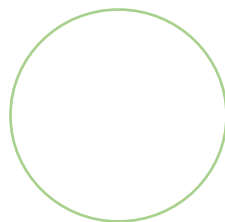
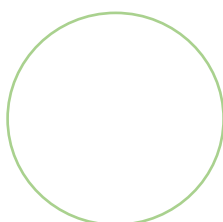
それぞれの場所に、信仰の先輩たちの息遣いが感じられるはずです。

どの順番で巡ってくださってもかまいません。

限られた時間ではありますが、ぜひ、それぞれの場所の前で、神様が導かれた時へと思いをはせていただければ幸いです。

ロゴス館(キャンパスマップ⑭)

【アラカルト・ラリー】



現在のロゴス館(四国学院同窓会館)が建てられているあたりに、教員住宅がありました。そのあたり一帯が子どもたち、学生たちの遊び場だったようです。

ちなみに、ロゴス館の玄関には、1952(昭 27)年と 1954(昭 29)年の学生募集のチラシが掲示してあります。「本学園はアメリカ教会大学を模範として基督教原理に立って一般教養及び専門の学術を教授するものである」という呼びかけと共に、「入学考査場」として、「四国基督教学園」と「神戸改革派神学校」の二つの場所が記されてあります。

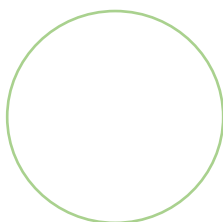


四国基督教学園の敷地は旧善通寺師団騎兵隊跡地を譲り受けたものであった。キャンパスにはあちこちにその名残があったし、むしろ師団の施設建物を積極的に利用した。開学当初の四国基教学園では、教職員、学生全てがキャンパスの中に住んでいたが、その住居は師団の建物をそのまま利用したり、廃材を活用して建てた急ごしらえのものばかりであった。教員住宅はキャンパスの南西に固まって小さな集落を作っていた。現在のロゴス館から奥に位置する。現在のテニスコートは馬を洗い、泳がせるための池の跡地にある。おそらくそれほど大きな池ではなかったのだろうが、幼かった私には底なし沼のように思われた。危険なので簡単なトタン板の塀が巡らしてあったが、扉もなくどこからでも入れた。学内住宅に住む子どもたちは魚やザリガニを釣ったり、池のふちにある階段をどこまで下りれるかという肝試しをしたり、トンボを追いかけたり、良い遊び場だった。「危ないから入ってはいけない」と言われた記憶は全くないので、大人た

ちも警戒心などなかったのだろう。春には、池に生息するウシガエルの巨大なオタマジャクシをいっぱい生け捕りにして、家の風呂場に放して母を仰天させたこともあった。夜にはその深くくぐもった鳴き声の子守歌になった。今でもわたしはウシガエルの鳴き声を聞くと反射的に眠くなってしまふ。

2号館(キャンパスマップ⑧)

【アラカルト・ラリー】



開学当初から大切に用いられ続けてきた建物です(残念ながら、老朽化のために現在、立ち入ることはできません)。旧陸軍第11師団(騎兵隊)の兵舎だったものが校舎として利用されました。国の登録有形文化財にも指定されています。

開学からしばらくの間、一階が教室として、2階が男子学生寮として用いられていました。ここで改革派教会の先

生方も学ばれました。授業が始まって一階に降りてこない学生を、教師は棒で天井をつつきながら「起きて、早く降りてきなさい」と呼びかけることもあったそうです。

ちなみに、2号館の前に1号館は?と思われるかもしれませんが、実は、1号館は現在、存在しません。その場所には敬愛館(本部棟・キャンパスマップ⑥)が建てられています。



(2号館)

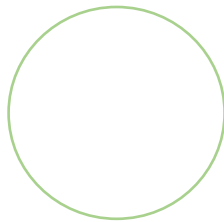


(授業の様子)

開学当初、学生寮は現在の2号館2階にあった。兵士たちの宿営舎をそのまま利用したのだった。畳一枚をマット代わりにした大きく頑丈なベッドとその上に就寝時に敷く布団をしまう、大きな収納庫があった。私が後に短大に奉職した時の研究室がこの寮の一室であった。さすがにベッドはもう置いてなかったが、収納庫はそのまま私たちも利用した。奥行きも間口も大きくて収納力抜群だった。ただ、上段の奥に入れた荷物を取り出すには、脚立に乗って、中まで這い上がらなければ取れなかった。

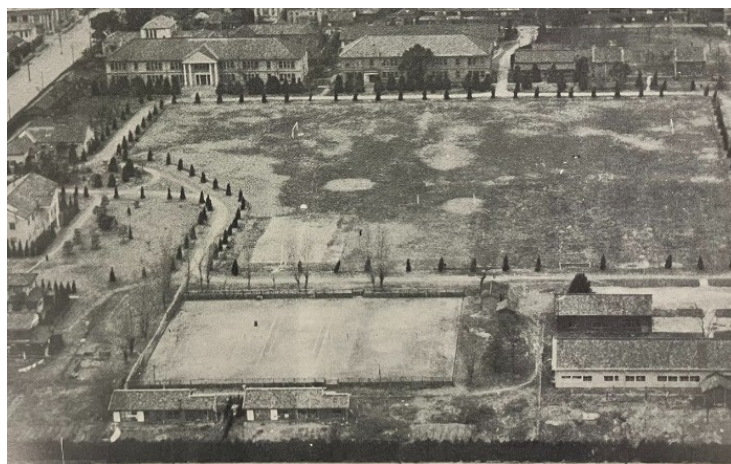
ホワイトハウス(キャンスマップ⑬)

【アラカルト・ラリー】



「ホワイトハウス」とはいかにもアメリカの風を感じさせてくれる名称です。もともとは陸軍騎兵隊 11 連隊の連隊本部として用いられていました。四国基督教学園においては、宣教師の住居として用いられることとなります。

ちなみに、かつては「チョコレートハウス」という、なんともかわいらしい名称で、やはり宣教師の住居として用いられた建物もありました。その場所には今、「清泉礼拝堂」(キャンパスマップ①)が建てられています。



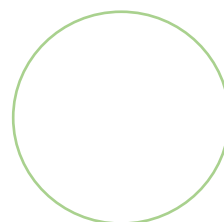
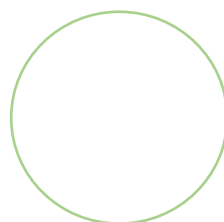
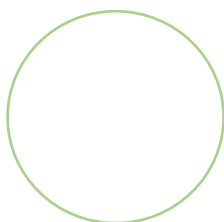
(開学当時のキャンパス。左端中央にホワイトハウスが見えます)

学生の数が増えてくると、2号館2階だけでは寮室が不足し、新しい寮を作ることになった。現在の立体駐車場の北端にあった馬小屋が、男子寮に建て替えられることになった。どの程度馬小屋の設備を利用したのか、すべて取り壊して新築したのか記憶にないが、バラックに毛が生えた程度の建物であったという印象がある。しかし、当時の学生たちは「イエス様と同じ、馬小屋に住むのだ」と意気込んでいたのは記憶に残っている。建て替えが始まる直前に子どもたちが、名残を惜しんで馬小屋の中を歩き回った記憶がぼんやりと残っているが、それ以外にそこで遊んだ記憶はない。おそらく、学内住宅に住む子どもたちにとって、遊び場にするには少し距離がありすぎたのであろう。少なくとも私のテリトリーではなかった気がする。

もう一つ、テリトリーでなかった建物にホワイトハウスがある。距離は現在の位置とさほど変わらず、周辺はまさに遊び場だったが、ホワイトハウスは特別な場所であった。宣教師たちの住居があったからである。建物全体に立ち込める外国の匂いが強烈な印象となって今も鼻腔の奥に甦る。それはバターと砂糖とシナモンの混ざったような匂いで、私たちの日常からはかけ離れた小さな外国だったのである。それはとても魅力的で、いや誘惑的でさえあった。ギャングエイジに差し掛かった私たちはしばしばホワイトハウスにこっそり忍び込み、ドアの隙間から中を覗き、大きくてがっしりした中央階段の手すりを滑り降りて遊んだが、必ず教師の妻たちにつまみ出された。こう書いてみると、やっぱり冒険的テリトリーの一つだった気もしなくはない。

西 門

【アラカルト・ラリー】



アトリウムコイノスを出たところに西門があります。西門は開学当初、「正門」として用いられていました。その門をくぐった先に、“学問をしたい人たちが

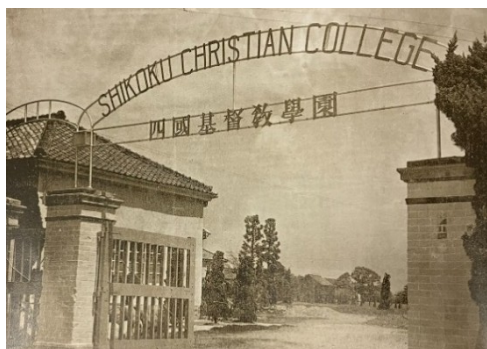
が集まった”という学び舎がありました。ある学生は、新約学の石丸新先生は火の玉の塊のような情熱のもとに、授業がまるで説教のようで豊かな福音

の世界を見せてくださったと、旧約学の A.B.テラ先生は、私が試験の答案に記した漢字の間違いをよく指摘してくださって、恥ずかしいやら申しわけないやらであったと、教理学の岡田稔先生は、とても優しく、それでいて威厳がある先生の姿をよく覚えていると、教えてくださいました。

肉のパンにも、霊のパンにも飢えた学

生たちが水を得た魚のように、神の恵みを十分に受けて、学問と、御言葉とを存分に学び得た世界が、門の向こう側に広がっていました。

ちなみに、西門に立っていただくと、目の前には護国神社が見えます。その場所にも福音が届くようにと願った宣教師と学園の思いが伝わってきます。



(開学当時の「正門」)



(食堂。現在の栄光館・キャンパスマップ②)

何しろ、キャンパスは教室も含めて私たちの遊び場だった。1、2号館のあらゆる隅っこを階段の裏に至るまで知っていたのだから、どれだけわがもの顔にふるまっていたか想像できる。それを許す雰囲気は当時の学園社会にはあったのだと思われる。

そして、わがもの顔にふるまうのは、子どもたちだけではなかった。学生たちもまた、学内敷地は自分たちの畑、学内住宅は自分たちの食糧庫と思っていたフシがある。当時の学生たちは本当に貧しかった。栄養失調で倒れるもの、結核を発病するものが絶えなかった。教職員もまた給料は非常に低く、それだけで子どもを育てることは難しかった。そこで、ただっ広いだけのキャンパスがあちこち畑として利用された。みんな勝手に思いついた場所を耕して芋や豆を作っていた。授業の空きコマには教員と学生、


さらには教員の家族も一緒になって畑仕事に精出していた。首に手ぬぐいを巻いて学生と談笑する日焼けした父の写真が残っている。健やかな晴れ晴れとした笑顔で、そこからは終戦直後の暗く鬱屈した父の姿は想像もできない。

さて、学生たちの若いお腹は畑の芋や豆でもまだ満たされなかった。当時ララ物資として粉ミルクや小麦が支給されることがあった。また、母の実家から、見かねた祖母が缶詰などを送ってくれることがあった。ところが、荷物が届くとその夜、学生たちはなぜか必ず「先生、質問があるので」と言ってわが家にやってきた。彼らはどこかで郵便配達の荷物を見張っていたに違いない。私たちは荷物が届くと、「お母さん隠して、隠して！お兄ちゃんたちに取られるから、隠して！」と必死の抵抗を試みたが、母の方にはその気がなく、訪れた学生たちに気前よくふるまってしまうのだった。彼らがどれほどひもじい思いをしているか、母は良く分かっていたのだろう。一度などは粉ミルクの袋を丸々、結核で寝込んでいる学生のところへ届けてしまったこともあった。その時の恨めしさは粉ミルクの袋の映像とともに脳に焼き付いている。食べ物の恨みはかくも根深い。そのため、学生たちは一緒に遊んでくれたり、両親の出かけた夜留守番をしてくれたりする大好きなお兄ちゃんであると同時に、食料略奪犯としての敵でもあったのである。

……1950年代の四国基督教学園はひとつのコミュニケーションのような姿をしていたと思われる。父(※編集者注。第二代学長の得永新太郎先生。善通寺教会長老)はその中で、水を得た魚のように回復し、少年のようなみずみずしい生命力を發揮し始めたのだと思われる。この時期の記憶にある父も母もいつも笑っていた気がする。初めの時期というものの持つ生命力の開花の力であっただろう。そしてそれはまた、同時に大きな勢いで変化へと突入していくものでもあったのだ。

！ 完成 ！

すべての言葉を、組み合わせてください。



A large rectangular area containing eight empty green circles arranged in two rows of four, intended for placing words.

このページの作成にあたっては、善通寺教会の速水清隆長老、得永幸子執事に多大なご協力をいただきましたこと、ここに感謝申し上げます。

あの日の四国学院大学

『写真で見る四国学院 50 年の歩み』(1999 年 10 月発行)より
「発刊にあたって」

橋本牧夫(理事長)

四国学院は創立 50 周年を祝うことになった。四国基督教学園として善通寺の地に創設され、四国学能短期大学となり、四国学院大学に発展し、大学が出来て行った 50 年の過程をふりかえって、神の摂理の御手に感謝し、多くの人達の努力を心より讃美する。

四国学院はキリスト教の精神を建学の理念として出発した。ふりかえってみると、この異邦の土地でこのような精神をもつ大学として成長することは、かないそうもない願望をもつこととおもわれる。原則についていくらか割引きをすることでもって発展した様にもおもわれる。だが創立 50 周年において第一に、神が導きたもうたことによって、ここまで発展したことを感謝すべきである。

四国学院は神戸に生まれたが、この地を選んでやってきて建設された。流れ流れて善通寺にやってきたのか、この土地を乳

と蜜の流れる土地として選びとってやってきたのか。前者であれば呪いの生涯をすごしたことになり、後者であれば歓喜の生涯をすごしたことになる。私達はこの土地が選びの土地であるとして祝福をしたい。愛する土地に生きるものは、まわりの土地に喜びを伝えることができる。

この四国学院に多くの国の人々が集まってきたことを感謝したい。平和を愛する国際的な大学として発展することを目指していることを感謝する。理性の上では人間の尊厳をみとめているが、感情の上ではお互いに共有することができない人々もいるが故に、この世界に争いはまだ絶えることがないとおもう。寛容と正義とが共存あることを希う大学として成長することを願っている。それは、人類の願望をも共有するとおもう。

ともあれ、四国学院の将来に神の祝福を祈る。

『ロゴスだより(四国学院同窓会会報)第15号』(2013年6月発行)より
「緑の芝と私」

石丸新(1952年度四国基督教学園卒業)
四国学院大学名誉教授
四国学院大学・四国学院短期大学元学長

1954年8月、現在の韓国仁川(インチョン)市で敗戦を迎えた私は、翌46年3月、縁あって善通寺に引き揚げて来ました。転校先の丸亀中学には、赤門前から琴平参宮電鉄の電車で通う日々が続きました。

1948年、最終学年の5年生であった私は、夏休みの間、善通寺に進駐していたオーストラリア陸軍の部隊で、兵舎とプールの掃除に併せ通訳見習を務めるアルバイトに精を出しました。その場所というのが、実は現在の四国学院大学の敷地だったのです。旧日本陸軍善通寺師団騎兵連隊跡地で、後に向山寮として用いられることとなる馬小屋では、軍用トラックの整備が行われていました。旧軍隊にしてはしゃれたプールは、現在の市民会館の敷地にありました。

1949年春、旧制中学校卒業後、旧制度の神戸改革派神学校予科に入学したのですが、翌年の1950年3月には、その予科が閉校となり、4月に新設されたばかりの四国基督教学園2年次に編入される形で、善通寺に戻って来ました。しかも

自分がかつてアルバイトをしていた、あの同じ場所に。芝の緑はひとときわ輝いて見えました。今も健在の2号館2階の寮に、一時期住んでいましたが、床板に銃の手入れに用いていたスピンドル油が染み込んでいて、その特有の臭いに、戦中に受けた軍事教練の思い出を重ねたものでした。

リベラルアーツの理念や歴史の詳細は後になって分かることとなるのですが、聖書、英文法、英文学史、米語文学史、米語作文・会話、ドイツ語、古典ギリシャ語文法・講読、ギリシャ文学史、新約聖書原典講読、哲学、論理学、西洋思想史、政治学、物理学、音楽、体育など、幅広い基礎教養教育を受けたことは、その後の生涯にとって大切な土台となりました。感謝は尽きません。

1953年の卒業に続き、神戸改革派神学校での3年間および米国留学を経て、岐阜県多治見市と宮城県仙台市で牧師を務めていた私は、1974年10月に、文学部人文学科の教員に加えられて、再び善通寺に戻って来ました。キリスト教概論

を初め、新約学、教理学、キリスト教史などを担当しましたが、学生時代にギリシャ語を専攻していたことから、10年余り、岩波全書のテキストを用いてギリシャ語を教えたのは、忘れがたいひとこまとなりました。朝一番の授業に志度や高松から駆け付けていた学生の顔と声を思い起こします。演習室での討議、研究室での卒論指導など、講義の教室では味わえない学生との時間は貴重な宝となりました。

……まずはアルバイト要員として、次には学生として、さらには教員として、あの緑のキャンパスで過ごした日々は、今も私のうちに生き続けています。米国南長老教会が長きにわたって大切にしてきたリベラルアーツ教育の伝統を今に継ぐ母校が、その理念の実現に向けて着実な歩みを進めることができますように。2万人を超える同窓生の一人びとりに、遠い空より心からのエールを送ります。

会場で出会った人たちとの記念に

わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。

「あなたのうちに平和があるように。」

詩編 122 編 1 節

主なる御神の導きのもとに、日本キリスト改革派教会創立 80 周年記念信徒大会を開催することがゆるされ、私たちは四国学院大学に集うことがゆるされました。この御恵みに感謝しつつ、また隣人と出会うことゆるされたことを喜びつつ、互いのサインを記してみるのはいかがでしょうか。





神の国を今ここに

すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。

栄光が神に永遠にありますように、アーメン。

ローマの信徒への手紙11章36節